

NPO設立資金助成の贈呈式開催は、近畿総務では、携わったメンバー全員が初めての経験だった。

マスコミへのニュースリリース、式典の段取り、そして、実際の式典での司会および進行など、社会環境室や記念財団・環境財団から聞いたり、自分たちで考えたりして、手探りの中からなんとかこなせたという感じだった。

終わってみて、マスコミに記事が掲載されたり、贈呈先の団体から、お礼の電話やはがきをもらったりすると、この助成金制度の良さを改めて認識すると共に、この助成金の贈呈式に携わることができて、本当に良い経験ができたと思った。

[近畿総務部 総務課]  
主任 有川 修 さん

**NPO設立資金  
助成贈呈式開く**  
損保ジャパン記念財団と同環境財団

催した写真。全国では記念財団が社会福祉分野の100団体へ、環境財団が環境保全分野の12団体へ贈呈する。助成金は1団体につき30万円、全国合計3360万円。小谷有生損保ジャパン近畿総務部部長は「今後社会福祉・環境保全活動に取り組みたい。各団

体には、一層活躍してもらいたい」と激励した。助成先は次の4団体。  
▽あい・すまいる淀川高齢者・障害者自立支援センター設立準備室▽枚方自助員の部屋▽みのお山麓保全委員会▽ハッピークラブ



22. 近畿総務部 毎日新聞 (7/30)

4団体にNPO法人設立助成金  
損保ジャパン財団  
府内の社会福祉などの活動に携わっている4団体が29日、NPO(非営利組織)法人設立資金として、損保ジャパン記念財団と「損保ジャパン環境財団」から各30万円の助成金の贈呈を受けた。助成を受けたのは、あい・すまいる淀川高齢者・障害者自立支援センター設立準備室▽枚方自助員の部屋▽みのお山麓保全委員会▽ハッピークラブ。



保  
念  
財  
団  
NPO設立資金の大阪地区贈呈式開く



大阪地区贈呈式には4団体から8人が出席

高齢者福祉など4団体に助成

（代表・池谷節子氏）から  
と（代表・小谷有生）環境財団  
（平野浩志理事長）は、7  
月29日午後2時から、NPO  
O法人設立資金助成の大阪  
地区贈呈式を損保ジャパン  
近畿本部で開催した。  
助成先団体である特定非  
営利活動法人「あい・すま  
いる淀川高齢者・障害者自  
立支援センター」設立準備  
室（代表・内海義司氏）  
をはじめ、「枚方自助具の  
部屋」（代表・藤尾征三  
氏）、「みのお山麓保全委  
員会」（代表・稲井信也  
氏）、「ハッピークラブ」

（代表・池谷節子氏）から  
8人が出席した。  
西財団では、今年度、全  
国112の障害者・高齢福  
祉団体に対し、特定非営利  
活動法人（NPO法人）設  
立資金として各30万円、合  
計3360万円の助成を決  
定し、全国各地で贈呈式を  
行っているが、そのうち大  
阪府下では4団体に助成し  
たもの。NPO法人設立資  
金助成は、特定非営利活動  
促進法の成立によってNPO  
O法人の設立が容易になっ  
たを受け、社会福祉・環  
境分野での設立を支援する



各団体にNPO設立資金 30万円が手渡された

ために平成11年から西財団  
が支援してきたもので、こ  
の5年間に全国566団体  
に1億6980万円を助成  
している。  
主催者側を代表してあい  
さつした小谷有生損保ジャ  
パン近畿総務部長は「西財  
団が東京にあるために、代  
わって近畿本部が行った」

とし、損保ジャパンが社会  
貢献活動の一環として昭和  
52年に設立し、25年を迎え  
た記念財団の活動について  
も述べるとともに、記念財  
団が平成11年を第1回とし  
て、毎年、全国の100団  
体に3000万円を助成し  
ている主旨について説明し  
た。  
また、平成11年に設立し  
た環境財団についても、グ  
ローバルな環境問題に対処  
し、環境保全活動や若手研  
究者への助成を中心に行  
い、平成11年から記念財団  
と同様に環境保全活動に従  
事するCSO助成の一環と  
して実施、今年も全国12団  
体、360万円の助成を行  
ったと報告した。  
さらに今回、助成の対象  
になった団体が法人化をす  
ることによって、「さらに  
大きく発展することが期待  
される団体である。市民活  
動の中でけん引的な役割を  
果たしていただける団体と  
確信している」とたたえ、  
損保ジャパンとしても引き  
続き応援をしていくと表明  
し、贈呈のあいさつとし  
た。  
続いて決定通知書が小谷  
部長から4団体の各代表者  
に手渡され、助成先を代表  
して、あい・すまいる淀川  
高齢者・障害者自立支援セ  
ンター設立準備室代表の内  
海氏が、「私たちのあい・  
すまいるも、いよいよ最終  
段階に入り、法人申請をし  
て本格的にNPOの団体と  
して活躍していきたいと思  
っている。この助成を励み  
に社会貢献に尽くしたい」と  
とお礼の言葉を述べた。



損保ジャパン近畿本部で助成金贈呈  
 損保ジャパンでは、(財団) 損保ジャパン記念財団および(財団) 損保ジャパン環境財団を通じて、平成十一年度から環境・社会福祉団体の特定非営利法人(NPO法人) 設立を支援しており、今年も全国合計三三六〇万円の助成(障害者・高齢者福祉一〇〇団体、環境二二団体、各三〇万円の助成)を決定した。  
 大阪府下においても四



団体(うち環境二団体)の助成先を決定。七月二十九日午後二時から、大阪市中央区の同社大阪ビルで、同社近畿本部が窓口となり、助成金の贈呈式を行った。  
 まず、同社の小谷有生

近畿総務部長が挨拶。これまでのいきさつや支援している団体が活発な活動を述べて、今後ともできる限り支援していきたい。さらなる活動を期待します」と結んだ。  
 その後、①特定非営利活動法人あいすまいる淀川高齢者・障害者自立支援センター設立準備室②枚方自助具の部屋③みのお山麓保全委員会④ハッピークラブの四団体に、小谷部長から決定通知書が交付された。写真。



NPO法人設立資金  
 5団体に助成金贈呈  
 損保ジャパン財団  
 損保ジャパン記念財団が障害者・高齢者団体にNPO法人設立資金30万円を助成する対象に県内5団体が選ばれ、神戸市中央区で1日、贈呈式があった。  
 26回目でNPO法人設立に絞って5回目。受賞団体は次の通り。  
 発達支援クラブパンビ(明石市)▽障害者自立センター(同)▽心臓病

の子どもを守る会(兵庫県)▽ヒューマンサポート(同)▽姫路地区手をつなぐ育成会(姫路市)【細川貴代】



兵庫本部の贈呈式では、寄付先団体から日頃の活動で苦勞していること等の発表を行っていただき、大変有意義な時間となった。

各分野及び地域で地道な活動で頑張られている方々が多くおられるのにあらためて感銘した。今後も、損保ジャングループとして受賞された団体の活動に可能な限り協力して行きたいと思う。

[兵庫業務部] 魚住 真紀子 さん

# 「あかりのいえ」に助成金

## 損保ジャパンがNPO法人を支援

財団法人損保ジャパン記念財団（平野浩志理事長）は、平成十五年度の社会福祉助成金として全国百の障害者・高齢者福祉団体に対し、特定非営利活動法人（NPO法人）設立のための資金として各三十万円、合計三千万円の助成を決定した。県内では和歌山市中之島八二九の七、「あかりのいえ」（小松正弘代表）が選ばれ七日、株式会社損保ジャパン和歌山支店の吉田宏支店長が同所を訪問、目録を贈呈した。

同財団は昭和五十二年、した福祉系団体が地域年に創設。以来、社会福祉助成を始め今回が二十六回目、NPO法人設立資金助成は平成十一年から今年度が五回目。

「あかりのいえ」は、てんかんや知的障害のある人たちの自立を目指す九家族で構成。今年二月、中之島地内に一戸建てを借り上げ支援者やボランティアの力を借りて自立した生活を送るグループホームを設立した。現在は宿泊体験などを

通じて、徐々に家族から離れても生活できるように慣らしている。先月二十五日にはNPO法人として承認された。保護者らは、「これまででは法人化することだけで精一杯でした。そういう意味でもこうした助成は大変有り難い。今後は実績を積んで市の助成金をいただけるよう目指したい。将来、私たちが先立つことになって子どもたちが自立できる環境をつくってやりたい」と話していた。



吉田支店長（右端）から目録を受け喜びの保護者ら

贈呈式で訪問した「あかりのいえ」で担当理事の方が、「助成金内定通知を受け、早速クーラーを購入しました。本当にありがとうございます。」と言われ、暑い最中、涼しい部屋へ案内された。助成金が役立ち本当によかったと実感しました。

〔和歌山支店〕担当課長（業務）  
齋藤 宏明さん

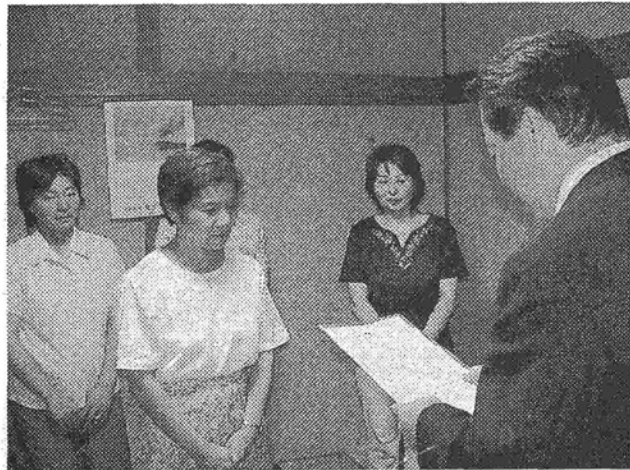


損保ジャパン  
記念財団

NPO「あかりのいえ」に

# 助成金30万円を贈呈

てんかん患者自立に向け



助成の通知書を受け取る「あかりのいえ」のメンバーら

民間福祉活動を支援しようとして、財団法人損保ジャパン記念財団（東京都新宿区、平野浩志理事長）は7日、和歌山市内にててんかん患者のグループホーム「あかりのいえ」（小松正弘理事長）にNPO法人設立資金助成金30万円を贈呈した。

財団のNPO法人設立助成は99年に始まり、これまで全国の約500団体に贈呈した。県内ではこれが初めてという。

県から認証された。患者の自立を目指し、一戸建てのホームで短期の宿泊体験などを行っている。来年3月をめどに患者と支援者が生活を始める予定だが、市の補助金を受けるとは4人以上が住民票をホームに移して生活しなければならず、現在はすべて自費で運営しているという。

「あかりのいえ」は、てんかん患者の家族らでつくる会「あかり」が今年4月26日に設立。7月25日にNPO法人として

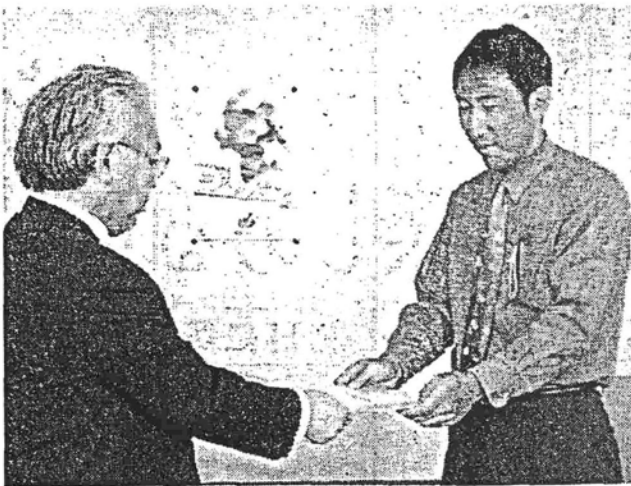
損保ジャパンの吉田宏・和歌山支店長から助成決定通知を受け取った理事のランドマーク京子さん(48)は「冷房や電話の権利代など、生活するうえで必要なものも足りない状態。助成金は本当にありがたい」と喜んでいた。

【小林多美子】

# 障害者支援団体に助成金

西和7町で活動する「たいむ」

損保ジャパンNPO法人設立を援助



損保ジャパン側から助成の決定通知書を受け取る富田昌博理事長(右)13日、奈良市大宮町6丁目の損保ジャパン奈良支店

西和七町で活動する障害者ための助成金30万円が、者支援団体「たいむ」（平野浩志理事長）から贈られる。群光ヶ丘二丁目、富田昌博理事長から贈られる。特定非営利活動（NPO）法人設立の奈良市大宮町六丁目の損保

シャパン奈良支店で贈呈式が行われた。「たいむ」は障害者の社会参加を支援しようと、西和地域の社会福祉協議会関係者らが中心となって、昨年十一月ごろから設立を準備してきた。今年五月に設立総会を開き、現在は県にNPO法人設立の認証を申請中。

設立後は障害者の居宅介護や外出支援活動をベースに、ホームヘルパー養成講座の開催や催しなどを開いていく予定。同財団の社会福祉助成活動の一環で、平成十一年から全国の障害者・高齢者福祉団体にNPO法人設立資金の助成を行っている。この時も同団体に資金を贈った。県内では四番目の助成式では、奈良支店の上崎正司指導役が「今年には全国で二百六十五件の助成申し込みがあり、六月の選挙考

員会で今回の助成を決めた。今後できる限り活動を支援していきたい」とあいさつし、富田理事長に助成の決定通知書などを手渡した。

富田理事長は「設立まで大変なお金がかかるので助成は本当にありがたい。NPO法人の設立をきっかけに、障害者の地域生活を支える活動を広げていきたい」と話していた。

浜田の福祉移送  
サービスに助成金  
損保ジャパン  
NPO(特定非営利活  
動)法人の設立を支援し



工藤孝博支社長(右)から助成金の目録を受け取る上  
ヶ迫昌宏代表

よつと、損保ジャパン記  
念財団は二十七日、体の  
不自由な人たちへの福祉  
移送サービスなどを手掛  
ける浜田市の「いきいき  
倶楽部」に、設立資金三

贈呈式では大変感謝  
され、助成事業は私自  
身が思っている以上に  
意義深いものであると  
感じました。

それぞれの分野で、  
地道に活動を行っている  
皆さんを心から応援  
したいと思います。

[島根支店 松江支社]  
リーダー(支社長)  
工藤 孝博 さん

十万円を贈呈した。  
同財団は、一九七七年  
に安田火災記念財団とし  
て設立。昨年、現在の名  
称に変更した。九九年か  
ら民間の福祉活動を推進  
する目的で、全国の百団  
体にNPO法人設立資金  
として各三十万円ずつ計  
三千万円を毎年、助成し  
ている。

本年度は全国から二百  
六十五件の申請があり、  
県内からは同倶楽部が選  
ばれた。  
贈呈式は、同市野原町  
の市総合福祉センターで  
あり、損保ジャパン島根  
支店松江支社の工藤孝博  
支社長が、同倶楽部の上  
ヶ迫昌宏代表に目録を手  
渡した。また、同倶楽部  
の設立総会も併せて行わ  
れた。  
上ヶ迫代表は「助成金  
は、福祉関係に役立てた  
い」と話している。

同財団は、一九七七年  
に安田火災記念財団とし  
て設立。昨年、現在の名  
称に変更した。九九年か  
ら民間の福祉活動を推進  
する目的で、全国の百団  
体にNPO法人設立資金  
として各三十万円ずつ計  
三千万円を毎年、助成し  
ている。

NPO法人設立  
資金30万円助成  
損保ジャパン財団  
損保ジャパン記念財団  
(平野浩志理事長)は十  
八日、社会貢献活動の一



中村徳山支社長(右)から設立資金助成の決定  
通知書を受け取る河本さん

環としてNPO法人設立  
のための資金三十万円  
を、周南市松保町の障害  
者福祉作業所「海月倶楽  
部」(北川博義代表)の  
関係者らでつくる同法人  
設立準備委員会に贈つ  
た。

財団が今年度の社会福  
祉助成金として、全国の  
障害者・高齢者福祉団体  
(百団体)にNPO法人  
設立資金各三十万円の支  
援を決定。県内では、北  
川代表らを中心にしたメ  
ンバーで設立予定の準備  
委員会が選ばれた。  
この日、同財団の代理  
として中村孝雄・損害保  
険ジャパン徳山支社長が  
作業所を訪れ、設立メン  
バーでもある河本博文・  
同倶楽部運営委員会事務  
局長に、決定通知書など  
の手続き書類を手渡し  
た。準備委員会では今年  
中にNPO法人を設立  
し、新年度から同倶楽部  
の運営をしていくことに  
している。